

全百
書科
交際
際篇
上

福岡第一師範學校
學校圖書

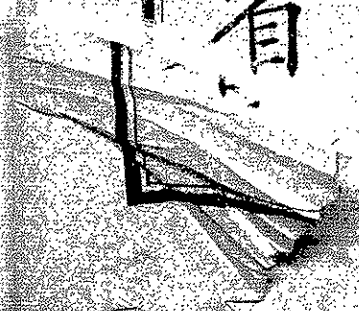
...	...
...	...
...	...
...	...
...	...
...	...
...	...
...	...
...	...

F1A1
23
Pa 33

明治七年三月

百科
交際編
全書

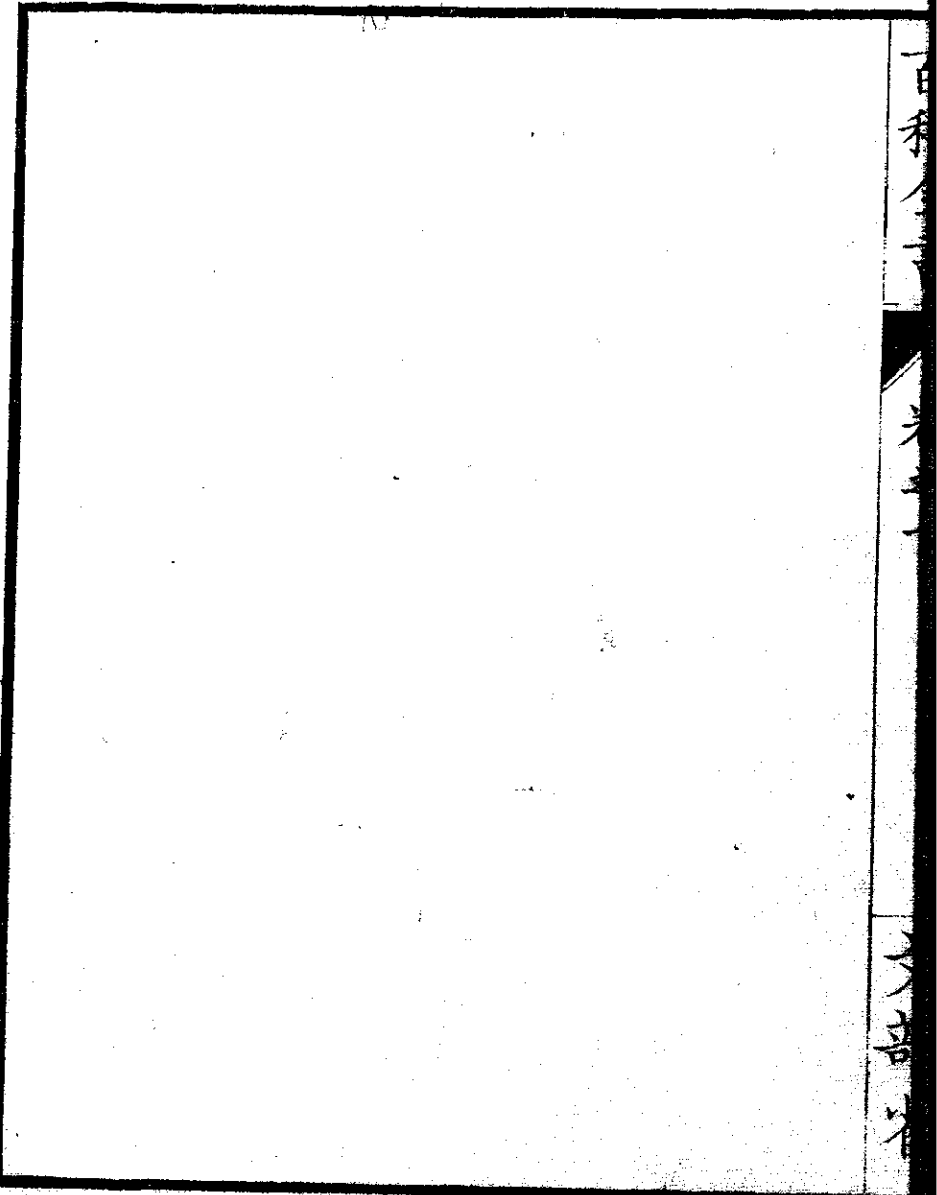
文部省



凡例

一 此書ハ百科全書中ノ一部ニシテ始ニハ人間交際ノ道ヲ説キ終ニハ政治ノ大旨趣ヲ論セリ

一 書中山川國都ノ如キ地理ニ關スルモノハ右傍ニ雙線ヲ畫シ人名ニハ單線ヲ畫ス又官名、量名等英音ノ儘ニ假字ヲ用ヰルモノハ總テ上下ニ矩域ヲ加フ



百科全書

交際篇目次

卷之上

總論

家族ノ大倫及ビ婚姻

エトピア國ノ紀

族宗政治ノ國及ビ同姓ノ種族

奴隸ノ狀態

人生ノ任責及ビ文明ノ國

都府

卷之下

政治總論

政治ノ体裁

貴族合議

立君獨裁

立君定律

共和政治

政府ノ革命

政治結論

行政

外國使節

政府ノ威力

交際篇目次畢

百科全書

交際篇上

高橋達郎

譯編

總論

人間交際ノ旨趣タルヤ先ヅ億兆ノ性情ヲ察シ
 以テ之ヲ論説セザルベカラズ夫レ人ハ天稟
 居テ好ムノ造物ニシテ彼我相交リ彼我相扶ケ
 以テ互ニ倚頼スルノ性情アリ世人或ハ此理ニ
 悖リ交際ヲ避ケ獨リ寂寞孤立シ以テ今日ヲ渡
 ラントスル者モアリト雖モ到底其身ノ不幸ヲ

招クモノニシテ普通ノ大法ヨリ之ヲ度外ニ置クベシ碩儒トーマス、ブランダン氏所著人心論ニ曰ク

凡ソ人々交際ノ中ニ生レテ其体格强健ナラザルノ間ハ盡ク此交際ヲ頼ンテ保育ヲ得ルモノナレバ苟モ幼稚ノ時父母ノ慈愛ニ頼ラザル所ハ特ニ軟弱孤ニシテ焉ゾ能ク其生ヲ保ツヲ得ンヤ蓋シ斯ノ如キハ畢竟唯少時苦難ノ為メニ此世ニ生ル、モノニシテ既ニ其苦難ヲ免ルレバ亦從テ其生ヲ失フ者ト謂フ

父
ベシ斯ク人間ノ交際ノ頼ンテ初生ノ保育ヲ得ルノ以テ之ノ考フレバ後年ノ安逸幸福ト雖ル亦何ゾ之ニ頼ラザルマケンヤ夫レ人間ノ交際ハ人ノ愛情ヲ覺エ且ツ之ハ鼓舞スルノ淵源ニシテ即チ人ノ嗜慾快樂ノ本源トナルモノナリ故ニ人ノ作業一トシテ此交際ニ関涉セザルハナク凡ソ事物ヲ覺エ或ハ之ヲ裁決シ又往日ノ事業ヲ記憶シ或ハ後日ノ仁惠怨恨ヲ計ルニ須臾モ人情ノ感及セザルヲアルナシ

上文ノ如ク凡テ人、強カヲ得、幸福ヲ求ムルハ
皆人間ノ交際ニ頼ラザルナキヲ以テ之ヲ觀
レバ蓋シ造物主蒼生ニ交際ヲ好ムノ性ヲ賦
與セシモ亦其深旨ニ出ル所ニシテ敢テ怪ム
バキニアラズ人ノ愛情ノ如キハ已ノ利益ヲ
謀ルニアラザレバ發スベカラザルモノト雖
モ尚未ダ此利益ニ着眼セズ唯、知ラズ識ラズ
已ノ利益ト為ル交際ヲ好ミスルモ亦天ノ然
ラシムル所ニシテ乃チ人ノ情合ヲ以テ之ヲ
知ルベシ余交際ノ中ニ生レ猶未ダ懇切ニ人

ニ接スルヨリ起ル所ノ利益ト相親ニ相交ル
ノ道ナキ片ノ弊害トヲ比較シ以テ其利害得
失ヲ辨ヘザルノ片ト雖モ既ニ此交際中ニ計
ルベカラザル情合ヲ顯セリ此情合ノ如キハ
人ノ生マル、ヤ忽チ發スベキモノニシテ此
道須臾モ心ニ怠念スルナキガ故ニ其生活ノ
歲月ヲ經ルニ徒テ愈推シ弘マルモノナリ實
ニ孩提ノ童其親ヲ愛スルノ甚シキト雖モ遊
童其伴侶ヲ求メ成人其思慮ヲ互ニ通ズルヲ
欲スルノ甚ダシキニ如カズ

夫レ人々己レノ思慮ヲ人ニ通ジ人ノ心意ヲ
己レニ得ルヲ快事トナスヲ以テ之ヲ觀レバ
言語ハ固ト說話聽聞ヲ以テ愉樂ヲ感ズルノ
情意ヲ紹々スル所以ノモノニシテ凡ソ人々
己レノ衣食住ノ不足ヲ他ノ同情ノ人ニ明シ
以テ互ニ其欠乏ヲ補フニ此說話ヲ用ルナリ
此說話ヲ以テ斯ル欠乏ヲ直ニ他人ニ告ルノ
媒物ト為ス并ハ彼令他ノ目的ニ用キル能ハ
ザルモ是レ以テ最良ノ便利ヲ給スルノ器械
タルヲ得バシ然ト雖氏帝ニ斯ノ如キ瑣事

ニ関スルモノニアラス言語ハ諸ノ思意情意
ノ説明ナル媒物ニシテ其全体ニ比較スル片
ハ上ノ如キ瑣事ノ為メニ用キルヲ如何ニ此
少ナリヤヲ知ラズ今二三ノ朋友ヲ會シ終日
互ニ說話問答シ以テ他ニ求ムベカラザルノ
幸福ヲ得然ルニ其說話ヲ反覆スル片ハ多ク
ハ諸種ノ欠乏ヲ明カシ交際ノ至情ヲ露ハス
ノ言語ニシテ帝ニ衣食住ノ不足ヲ明カス者
ノ如キハ特ニ稀ナリ而シテ彼ノ至情ノ如キハ
傍ヲニ同情ノ人アル片ハ彼令哀悼ノ人ト雖

唯哀悼ノミニ沈マシメテ快活ノ人ト雖_レ唯
快活ノミヲ感ゼシメズ又已レノ心ニ関スル
所ノ事故ヲ聞クキハ忽チ此ニ其意ヲ發セザ
ルヲ得シ抑宇内各國極メテ其言語ヲ異ニス
ト雖_レ諸人ヲ鼓舞スル所以ノ語アルハ何處
モ異ナルナク凡ソ時世ノ變遷ニ拘ラズ文明
夷俗ノ別ヲ論セズ人ヲ鼓舞セシムルト同一
轍ニシテ人ノ生ル、ヤ忽チ之ヲ知り其死ス
ルヤ始テ之ヲ忘ル夫レ斯ル情合ノ語アル所
以ハ蓋シ人類一般ニ同情相憐ムノ意アル証

ニシテ乃チ此同情ノ如キハ普天ノ下到處
人ヲ會シ到ル處人ヲ扶助スル所以ノ者ナリ

家族ノ大倫及ビ婚姻

天下ノ交際ハ一家ノ交際ヨリ起ル一家ノ交際
ハ夫婦親子ヲ以テ本ト為ス夫レ一家團欒好合
調和ノ親ミハ人性欠クベカラザルモノニシテ
天地有テヨリ以來既ニ茲ニ存ス想フニ天ノ灵
命尚_ホ之ヲ萬世無究ニ傳ヘシムベシ是故ニ世人
或ハ家族ノ大倫ヲ絶タントスルモ常テ其成績
アルナシ蓋シ天理ニ悖レバナリ抑一家和合ノ

根源ハ一男一女夫婦配偶ノ礼ヲ正ウシ互ニ情
實ヲ盡シ假令生涯ノ間如何ナル禍災アルモ死
ニ至ルマデ其配偶ヲ離レズ又專ラ其子ヲ教育
スルニ在リ文教既ニ洽キ國西洋ヲ指テ云ニ於テハ男
女婚姻ヲ結ブニ皆法律ト旧例ニ由テ之ヲ定ム
ルヲ法トス然ルニ東洋諸邦ニ於テハ從來一夫
衆婦ヲ娶ルノ風徃々行ハルト雖モ斯ノ如キハ
子孫養育ノ道ナキ而已ナラズ男女ノ配數宜キ
ヲ失フノ理ナレバ総テ正道ニ悖ルヲ瞭然タリ
斯ル婚姻ノ行ハル、國ニハ多ク婦人ヲ賤シム

其位階奴僕ト高低ナク礼讓ノ風亦地ヲ拂テナ
シ蓋シ造物主ノ意女子ト雖モ苟モ是非善惡ヲ
分チ事物ノ理ヲ明ニセバ女子モ人ナリ男子モ
人ナリ豈男子ト之ヲ異ニセンヤ元ト是レ婦人
ノ職分ハ妻トナリテハ夫ニ事ヘ母トナリテハ
其子ヲ育シ以テ家門ノ幸福ヲ計ルベキモノナ
レバ宜ク之ヲ敬愛スベシ然リ而シテ能ク此實行
ヲ奏スルモノハ獨リ一夫一婦ノ配偶ニ在リ今
斯ク明ヤニ人ノ大倫ヲ爰ニ舉ル所以ハ他ニア
ラズ世人或ハ家族好合調和ノ親マナクシテ父

母ノ配慮ヲ人生ノ職分ト為ササル如キ交際ノ
 新法ヲ唱フル者往々コレアルニ因ルナリ蓋シ
 其新法何ゾ夢幻ト相異ナルアラシ故ニ人トシ
 テ之ヲ廢斥セザルハナク皆之ヲ實行スルルハ
 遂ニ人生ノ幸福ヲ消滅スルヲ察知スベシ
 前既ニ述フルガ如ク天下ノ交際ハ一家ノ交際
 ヨリ起ルト雖モ家々相聚リ互ニ一國ヲ為スノ
 方法ニ就テハ古今屢議論アレバ少シク茲ニ其
 意ヲ論說セザルベカラズ顧フニ真ノ確論ヲ得
 ルハ之ヲ造物主ニ謀ラシメ

天地開闢ノ初ヨリ各國ノ起ルハ若干ノ家族ヨ
 リス各箇ノ家族一般ノ景況ニ於テハ皆獨立不
 羈ノ情態ニ在リシナリ而シテ太古族宗政治ノ
 世ニ於ケル此等ノ家族皆大トナク小トナク常
 ニ一ニ種族ノ酋長ニ從屬シ或ハ之ト連合セシ
 モアレバ其一人一式ノ儀ヲ捨テ互ニ私社ヲナ
 シ以テ歲月ヲ送ルモノ未タ曾テ之ヲ聞カズ凡
 テ各箇ノ家族皆己レノ家ヲ有シ己レノ喜怒哀
 樂ヲ持シテ之ヲ他族ト共ニセズ一家ノ君主ハ
 乃チ其父ニシテ常ニ各些少ノ土壤ヲ領シ其妻

子春族ヲシテ日々ノ活計ヲ為サシムルノ分ヲ盡セリ

斯ノ如ク世上一般ニ行ハル、ノ事業一トシテ天道ニ背キ人事ヲ害スル者必スアル可カラズ固ト是レ人生ノ欠乏ニ基クモノニシテ實ニ不拔ノ事情ニ由テ自カラ此ニ成績セシモノナラシ今之ヲ人ノ性情ニ覓ムルニ凡ソ人ノ行為常ニ獨立不羈ナルハ大ニ其身ノ^鍛計固心其他必要ノ情意ヲ開クベキモノニテ其旨趣畢竟私慾ニ出ルヲ疑ヒナシト雖凡私慾ハ固ト貴重スベ

キ念慮ヲ包含スルモノニシテ常ニ其惡事ヲ生ズルガ如ク亦大ニ善事ヲ發スルモノナリ凡ソ人ノ一家ヲ治メ居處ヲ定メ工藝ヲ行フ上ニ不羈獨立ナルハ然テ文明ノ國ニテ人ノ貴重スベキ事物ノ本源トナルモノナリ

上文ニ應シテ人或ハ云ハン若シ億兆ノ人民ヲシテ自然ノ^姓狀ニ任カスレハ到底邪說暴行興リ才子ハ益富豪トナリ愚者ハ増貧苦ニ陥リ各國竟ニ内乱ノ為メニ滅亡セラル、ノ弊アラント此ノ如キハ稍道ナキニ似タレ凡世界萬國各

貧富善惡ノ人アルヲ以テ之ヲ考フレバ固ヨリ
 實事ナラザルナシ其根據スル所抑又交際ノ善
 惡ニ由テ然ラシムルニアラズ是レ則チ天下人
 類自然ノ性質ヨリ發スル者ニシテ止ムヲ得ザ
 ルノ勢ナリ是ヲ以テ國家或ハ不正ノ一アルモ
 漫ニ交際ノ法ヲ改ムル一ナク專ラ礼讓ヲ脩メ
 知識ヲ開キ以テ之ヲ改化セザルベカラズ故ニ
 此悲歎ス可キ弊害ト雖モ徒ラニ恐懼ノ心ヲ懷
 クベキニアラス當今ノ如キハ皆是レ人間ノ運
 命己ムヲ得ザル所ナラシ實ニ人ノ行跡盡ク医

スベカラザルガ故ニ此弊害モ亦全ク消滅スル
 一ナカルベシ凡ソ何等ノ國タルヲ問ハズ交際
 ノ未ダ幼稚ナル片ハ慘刺非道ノ所業絶エテ掠
 奪盜賊常トナリ稍此時間ヲ過キ億兆文明ノ德
 澤ニ浴スルニ至レバ最惡ノ弊害漸ク消滅シテ
 其餘風猶殘惡ヲ留ムルニ過ズ方今大英國其他
 文明ト唱フル國ニ於テハ交際ノ狀態漸ク將サ
 ニ草昧ヲ脱シテ開化ノ域ニ至ラントス蓋シ方
 今諸國皆其進歩甚ダ迅速ニシテ年々歳々愈萬
 物ノ光景ヲ改化シ交際ノ狀態ヲ開進シ斯ノ如

クニシテ今年悲歎誹謗スベキ事業モ明年ハ之ヲ剷除シ之ヲ遠ザクルニ至ルノ勢世人或ハ之ヲ疑フモ豈ニ果シテ其理ノ當然ニ出ルヲ知ラシヤ

エトピア國ノ紀

英才ノ人ハ或ハ不善懶怠愁傷貧窶等ノ患害甚ダ少キ交際ノ風俗ヲ想像スルト往々コレアリ然ルニ英王ハヌリ八世ノ代ニ當リトーマス、モール氏ナル者アリ志氣高尚ニシテ能ク人ノ尊敬ヲ得時ニ本邦ノ攝政タリ嘗テエトピア國ノ

紀ヲ作ル其文羅典語ニシテ始メニ贊美ヲ飾リ終リニ之ヲ訛テ暗ニ世ノ新法ヲ唱フルモノヲ嘲刺スエトピアハ希臘ノ語無處ノ義ナリ是ヨリシテ其後英國ニ於テ總テ實際ニ施シ難キ人ノ目的ヨリ發スル人間交際ノ説ヲ指シテ之ヲ

エトピアト云フ

エトピア國ノ紀ハ亜米利加發明ノ後未ダ幾ナラズシテ記セシモノニテ其大陸ノ南方ニ當テエトピアト云ハル爲アリト嘗テモール氏アントウエルプニ在テ旅客ヨリ傳聞ノ紀ト為ス其大

略則チ左ノ如シ

旅客某氏嘗テ二三ノ輩侶ヲ伴ヒ共ニ勝地ヲ
 登遊セシ片偶一島嶼ニ到ル此地大陸ヲ距ル
 遠カラズ古昔此ニユトピースト云ヘル魁首
 アリ故ニ其名ヲ取テ此島ヲユトピアト称ス
 島ノ長徑約五百里其最廣ノ處幅徑約二百里
 其兩端褊尖ニシテ共ニ屈曲ス其地形宛モ新
 月ノ如シ其兩端相距ルニ僅ニ十一里ニ過ズ
 故ニ自カラ國ノ中央ニ内灣ヲ為シ巖石點々
 歌側シテ立ツ其間處々ニ暗礁アリ故ニ土人

ハ能ク安危ノ處ヲ知リテ此天然ノ港ニ入ル
 ト雖ハ外人ハ之ニ入ルニ甚ダ難シ且此島ノ
 外面ニモ亦數港アリト雖ハ是レ皆其中ニ怪
 石紛錯ス此等ノ港ヨリ内地ニ入ルノ路ハ崎
 嶇折轉シテ甚タ困難ナリ國內ニハ二十有四
 箇所ノ都府アリ孰レモ盛大ニシテ地位甚ダ
 美ナリ所在樓閣相連リテ街衢整齊ス風俗淳
 朴ニシテ律法甚ダ寛ナリ國中舉テ同語ノ解
 ス此等ノ景况諸都府皆同一ニシテ一モ異ナ
 ルナシ故ニ其一ノ景况ヲ見テ其他ノ景况ヲ

知ルベシ都々相離ルヲ僅ニ一日程其最モ距
ルモノト雖凡亦二十四里許ヲ過クルモノナ
シ首都ヲアマウロラムト曰フ其首都タル所
以ハ他ニアラズ地位國ノ中央ニ在テ公事評
議ノ代諸都府ヨリ名代人ノ集會ニ便ナルヲ
以テナリ此名代人ハ一都ヨリ若干ノ年齢ニ
達シ然テ職業ニ老功ナル者三名ヲ選舉スル
ヲ定式トス諸都府皆四面ニ村落ヲ開ラシ各
之ヲ管轄ス而シテ都人ハ順次ニ交代ヲ為シテ
自カラ土地ヲ耕シ甲ノ部田舎ニ行テ耕具ヲ

把レバ乙ノ部ハ都府ニ在リテ其業ニ就クト
云フ其耕耘ニ充ル者田舎ニ居ルノ間ハ各平
民四十人ト奴隸二人トヲ以テ一家ト為シ毎
家必ズ一ノ家長ト一ノ家母トヲ附シ三百家
毎ニ族長一人ヲ置ク此一家四十人ノ中二十
人ハ毎歲都邑ヨリ來ルモノト交代ヲ為シ以
テ都下ニ歸來ス故ニ各人二年間專ラ農業ヲ
勤ム斯ノ如クニシテ常ニ半數ノ人ハ農業ヲ
理會シテ他ノ新來ノモノニ教フルヲ得然レ
凡人々其耕耘ト野業ノ樂シキヲ以テ歸期ニ

及フモ猶^ハ逗^ラン^トヲ欲スルモノアリ抑^キ其為
 ス所ノ業ハ五穀ヲ養ヒ六畜ヲ飼ヒ或ハ木ヲ
 伐リテ都府ニ運輸スルニ在リ就中鷄雛ヲ飼
 フ^ト甚ダ盛ニシテ其卵ヲ啗^ル科セシムルニハ
 通常ノ方法ニ賴ラズ別ニ窖室ノ温氣ヲ以テ
 スルニ其業ガ巧ニシテ成功甚ダ大ナリ又穀
 類ヲ作ルモ造酒ノ為ニアラズ唯麵包ノ為メ
 ニスルナリ其飲料ハ則チ我が英國ノ如ク林
 檣酒、梨子酒、葡萄酒等ヲ用キ又土地ヲ用キル
 ニモ先ヅ己レノ都府并ニ其管内ニ於テ五穀

産物幾許ヲ要スルヤヲ算計シテ只管其州ノ
 不足ニ供シ猶餘アレバ之ヲ他方ニ送シテ
 勤ム又田舎ニテ都下ノ製造品ニ欠乏スル片
 ハ之ニ換フルノ品ヲ與ヘズシテ欲スル所ノ
 物自在ニ之ヲ得ルト云フ而シテ穀類收納ノ期
 ニ及ビ族長ヨリ之ヲ都府ノ政府ニ上言スレ
 バ闔國ノ人民日ナラスシテ之ヲ倉廩ニ收ヒ
 凡ソ都城ノ景况何レモ相同キガ故ニ爰ニア
 マウルテム府ノ紀ヲ録シテ他ノ都城ノ事ヲ
 略ス讀者宜ク準知スバシ抑アマウルテム府

百和全書 三卷之一
八一斜丘ノ上ニ在テ清流其下ヲ繞リ湍水ノ
時ニハ舫船ヲ泛ヅテ府下ニ達スルヲ得マシ
此河兩岸ニ石墻アリテ許多ノ船舶茲ニ碇泊
ス地勢方形ニシテ直道迢カニ相通シ道ノ兩
傍ニハ樓閣粉壁相映シ前ニ砌路アリ後ニ花
園アリ前後ニ門戸ヲ設ケ之ヲ推セバ輒チ開
ケ之ヲ放テバ自ラ閉ツ而ノ何人モ他人ニ秘
スベキ室ヲ持セザルガ故ニ其門戸ニ錠ヲ附
スルナシ又都人ハ各好テ花園ヲ造リ天下ノ
花卉一トシテ此ニ培植セザルモノナク百花

艶ヲ競ヒ香ヲ鬥ハシ樹色蒼々園圃ノ大ナル
亦一日ニシテ見ル可カラズ真ニ神仙奇觀ノ
地ト云フベシ竊ニ顧フニ初メ此府ヲ設ケシ
人殊ニ意ヲ花園ニ注キシニ後人之ヲ開進シ
テ蓋シ斯ニ至ル歟

官府ヲ設クルノ法ハ都府ノ眷族毎三十家ヨ
リ年々議生ト云ヘル一員ノ名代人ヲ選舉シ
而ノ十員ノ議生ト之ヲ選舉セシ眷族三百家
ノ上ニ又議官ト云ヘル一員ノ名代人ヲ置テ
之ヲ管理セシム其上ニ又議長アリ之ヲ選舉

百利全書 卷之三 文部
スルニ方テ都府ヲ四分シ每部必ス一員ヲ名
サシ以テ衆庶ヨリ之ヲ議生ニ呈ス議生ハ總
員二百人ニシテ先ヅ真ニ國益ト為ルモノヲ
選舉セントノ誓詞ヲ為シ然ル後各密カニ其
名ヲ片紙ニ書シテ之ヲ箱笥ニ投シ以テ四名
中其選舉ニ當ルモノ一員ヲ舉テ議長ト為ス
議長ハ獨立擅恣ノ權ヲ掌握セント欲スル意
ナケレバ終身其職ニ居ラシム然レ雖モ議官
ヲ始メ其他ノ官員ハ年々改メテ之ヲ選舉ス
ルヲ法式トス議長ハ常ニ三日毎ニ議事院ニ

出テ、議官ト共ニ公務ヲ議シ或ハ人ノ訴訟
ヲ決スト雖モ非常ノ片ハ屢集會スルトモア
ルナリ但シ議生ハ日々二員宛此ニ出席スル
ヲ常トス右ノ如ク議事院ノ外他所ニ於テ公
務ヲ議スルハ議長ノ重罪トス即チ官途ノ人
陰カニ徒黨ヲ結ビ下民ノ自主自由ヲ害セン
トテ防クノ法度ナリ又大事件ノ時ニ方テハ
議事院ヨリ其事故ヲ議生ニ告テ之ヲ其出處
ノ眷族ニ謀ラシメ其眷族ノ所思ヲ議事院ニ
建白セシムルヲ法式トス

耕作ノ一ハ國人皆幼稚ノキヨリ學校ニ入テ之ヲ學ビ且其家族田舎ニ在ルノ間專ラ之ヲ勤ムルガ故ニ知ラザル者ハ或ハ少シ其他織ヒ工ハ、木、匠、冶、師ノ業モ亦之ヲ研究ス大凡此國ノ手藝蓋シ此等ノ如シ其服制ニ至テハ特ニ男女ヲ別ツノ外種類甚ダ少ナク且甚ダ輕便ナリ而シテ家々各自カラ布帛ヲ織テ之ヲ用ルト總テ男女ノ別ナク外ニ一箇ノ職業アリテ大抵其祖先ノ業ヲ當ト雖ハ婦人ハ殊ニ輕快ナル作エヲ為スヲ常トス但シ其勤ムル所毫モ

困難ナルニアラズ其故ハ作エヲ為ス一一日ヲ二十四時ニ分ツトスレバ午前三時間午後亦三時間合シテ六時間ニ過キズ其餘ノ時間ハ皆其人ノ随意ニ在リト雖ハ敢テ放蕩恣情ヲ為スニ非ス或ハ詩文ヲ讀ミ或ハ講義ヲ聴キ凡テ理条ノ歡娛ヲ為スニ在リ斯ノ如ク其業ヲ當ム一一日總カニ六時間トスレバ其狀態想フニ貧困ナラザルベカラズ而シテ其國必ズ供給不足ナルニ似タレ是レ決シテ然ラス其生活日用ノ物ヲ得且安逸ニ供スルノ物

ヲ得シニハ唯、少時間ノ作エヲ以テ足レリト
為セバナリ然ル所以ヲ知ラント欲セバ須ラ
ク他國ノ景況ヲ見ルベシ其人民皆怠惰ニシ
テ工藝ヲ勤メザルモノ幾人アルヤ或ハ放逸
ノ為メ徒ラニ贅物ヲ造ルモノ幾人アルヤ或
ハ又國益ヲ為サズシテ反テ弊害ヲ醸スノ業
ヲ為スモノ幾人アルヤ十ニ八九ハ皆是ナリ
而ノ此等ノ人ハ空ク他人ノ勤勞ヲ坐食シ反
テ有用ノ物産ヲ勉ムル人ヨリ費ス所更ニ莫
大ナリ夫レユトピアニ於テハ然ラズ人々日

々勤勞セサルモノ甚ダ鮮ナシ議生ノ如キハ
元來作業ヲ免ル、ト雖、凡公務ノ餘暇亦作業
ニ就キ以テ他人ヲ警誡セントス又文學ヲ研
究セントテ既ニ議生ト僧侶トノ推舉ヲ得且
友人ノ許可ヲ得テ學生ト為リ以テ手藝ノ管
ミヲ免ルモノト雖、凡若シ人望ヲ失フハ再
ビ其舊業ニ復セラル此ニ反シテ商人ハ已レ
ノ餘閑ヲ以テ學業ヲ勉メ既ニ其功ヲ顯セバ
亦學士ノ班ニ加ハリ其屬スル所ノ特權從テ
之ヲ得ルニ至ル凡ノ欽差大使僧侶議官及ヒ

議長ヲ選舉スルハ皆此學士ノ班ヨリス又此
 國ニ於テハ何等ノ事ヲ問ハズ力ヲ有益ニ盡
 シテ無益ニ費ササルノ風習アリ是レ則チ有
 益ノ事物ヲ潤澤ニスルノ一助ナリ然ルニ他
 邦ニ於テハ人々其祖先ノ建造セシ家室殊ニ
 毀損ナキモ己ニ適意ナラサレバ猥リニ之ヲ
 毀却シ或ハ其模様ヲ變ジ或ハ再ド之ヲ經營
 シテ徒ラニ幾多ノ工入ヲ用キルト雖モ
 ピアノ人ハ皆之ヲ笑フベキノトナス衣服
 ニ於テモ各人作業ニ就クノ間ハ韋革或ハ堅

鞣ノ織物ヲ以テ製セル一叢ノ衣服ヲ着シ又
 外行スル時ハ表衣ヲ着スト雖モ其染色ト風
 習トハ國中皆同一ナリ蓋シ唯主トシテ意ヲ
 用キルハ其衣服ノ浣濯補綴ヲ怠タラズ極テ
 之ヲ清潔ニスルニ在リ他邦ニ於テハ屢衣服
 ノ風習ヲ變ジ或ハ其染色ヲ易ヘ以テ無益ニ
 消費ヲ為スト雖モピアニ於テハ斯ノ如
 キトテ為スヲ欲セズ總テ何人ニテモ他邦ノ
 如キ無益ノ變易ヲ為シ徒ニ無益ノ時ヲ費ヤ
 モテ無用ノ消耗ヲ為スヲ以テ自カラ心ニ快

シトセズ他人モ亦之ヲ尊敬スルモノアルナ
シ

今將サニユトピア人互ニ交際ヲ為スノ方法
ト一族ノ商人已レノ産物ヲ他人ノ製品ニ交
換シテ已レノ欠乏ヲ補フノ方法トヲ爰ニ記
セントス前ノ条々ニ於テ全國ノ人民分テ家
族トナスヲ記セシガ彼ト此トノ間ニ婚姻行
ハル、ハハ男子ハ父母ノ命ニ從ヒ猶ホ其家ニ
止リ女子ハ父母ノ家ヲ出テ、夫ノ家ニ嫁シ
共ニ其生計ヲ為ス蓋シ男女婚姻ノ年紀女子

ハ二十二、男子ハ二十六歳ニ至ラザレバ之ヲ
許サズ而シテ一家族ノ人員ハ十人以上十六人
ヲ限リトシテ之ニ過不及アルヲ許サズ又府
下ヲ分テ四區トナシ每區ニ市場ヲ設ク人々
其製造品ヲ携へ來テ其庫ニ入レ而シテ已レノ
欲スル物ヲ得テ歸ル是レ則チ貿易ナリ然レ
モ少許ノ物ヲ入レテ莫大ノ品ヲ取り去ルノ
憂ナシ斯ク勤勞ヲ施スト少ナルモ豈懶惰ニ
流ル、ト謂ハンヤ又品物多ク此ニ蓄積スル
モ何ゾ必ズ貪婪ナリトセンヤ

府下ノ區々各會食堂ノ設アリ衆人此ニ聚リ
毎三十家族一箇ノ食案ニ列坐シテ共ニ飲食
ス既ニ食事ノ時刻ニ至レバ或ハ喇叭ヲ吹キ
或ハ螺殼ヲ吹キ以テ之ヲ報ズ然レハ人々必
ス此食堂ニ來テ飲食スベキニアラズ唯其好
ミニ任カセ自家ニテ飲食スルモ亦得ベシ然
ト雖ハ衆庶ニ備フルノ器具ハ調理甚タ羨ニ
シテ殊ニ長幼ノ別ナク相列ルガ故ニ幼者ハ
謹テ長者ノ談話ヲ聽キ大ニ戒ト為スアレ
ハ却テ自家ニシテ飲食スルノ利ナラザルニ

勝ル又疾病ノ備ニハ衆庶一般ノ為メニ設ル
所ノ病院アリ其地爽快ニシテ四面墻壁ナク
專ラ新氣ノ流通ヲ能クス其療養ノ懇切ナル
一モ至ラザル所ナシ是ヲ以テ患者自家ニ卧
シテ療養ヲ為サンヨリハ寧ロ此ニ到レバ更
ニ良医ノ治療ヲ受ルガ故ニ貴賤貧富ノ別ナ
ク疾病ニ罹ルキハ必ズ此ニ到ルト云フ
此國ノ風俗頗ル善良ナルガ故ニ交際ノ法甚
ダ整頓ンテ之ヲ治ムルモ僅少ノ律法ヲ以テ
足レリトス故ニ律法ノ數甚ダ少ナシ然シテ

其國人以為ラク凡ソ外國ニテ如何ナル弊害
ト雖氏律法ノ書ニ過クル者ナシト且ツ之ヲ
論シテ曰ク其書曖昧トシテ之ヲ解スルト甚
ダ難ク且ツ其書ノ數頗ル多クシテ之ヲ讀ム
能ハサルキハ衆庶何ヲ以テ之ヲ守ルベキヤ
ト實ニ至當ノ論ト云フベシ又自國ノ律法ニ
就テ以為ラク凡ソ律法ハ愚民ニ曖昧タルキ
ハ全ク其用ヲ為サザルガ故ニ其文鄙俗解シ
易キヲ主トシテ精細文雅ヲ以テ之ヲ示サ
ルヲ尚グト

トトピア人ハ自國ニ對シ以テ同盟ノ國ニ對
シテ至大ノ害ヲ為ス者ナケレバ干戈ヲ動カ
スト稀ナリ其干戈ヲ動カスニ當テ元帥タル
モノ假令全勝ヲ得ルモ血流漂杵ノ所業ヲ以
テスレバ必ズ人望ヲ得ル能ハズ若シ夫レ人
命ヲ害スルト甚ダ少ク唯帷幄ノ籌ヲ以テ強
敵ヲ夷クル能ハザルハ人皆未熟ノ將トシ
テ之ヲ賤シムル風ナリ

此國ニ行ハル、所ノ宗門千種万類同府中ト
雖氏信ズル所往々各異ナリ甲者ハ日輪ヲ拜

シ乙者八月輪ヲ拜シ丙者ハ一惑星ヲ以テ上
帝ノ像トシ或ハ其名代神ト為シテ之ヲ拜ス
然ルニ此國耶蘇宗ノ教弘マルニ及テ國民之
ヲ仰拜スルモノ半ニ過キタリ其信仰實ニ口
舌ノ能ク盡スベキ所ニアラズ此ノ如ク人々
皆耶蘇宗ニ入ルト雖比古宗ノ人毫モ之ヲ是
非スルトナシ夫レ此國ニ於テハ何等ノ宗門
ヲ信仰スルモ敢テ其人ヲ誹謗スベカラザル
ト古來ヨリノ法度ナレバ未ダ何人ニテモ宗
旨ノ事ニ就キ他人ヨリ是非セラレシトヲ聞

カズ

右ノ外彼ノ旅客ヨリユトピアノ事情ヲ傳聞
スト雖此ニ枚擧スルニ遑アラズ蓋シ余ト
マスモ一ヲ以テ之ヲ觀レバ此國ノ制度中ニ
甚ダ不都合ナルモノ數条アリ即チ軍略ノ事
ト宗旨ノ説ノ如キ是ナリ猶ホ此ヨリ甚シキハ
千緒萬端ノ要訣タル事業ニ在リ此事業ハ乃
チ他ニアラズ其國ノ諸物ヲ一同ニ領シ又貨
幣ヲ用キルヲ禁ズルノ風習是レナリ此二様
ノ制度ヲ考フルニ億兆ノ人民ヲシテ共和政

治ノ德澤ニ浴セシムル所以ノ事物ヲ打滅ス
ルモノナリ

トーマス、モール氏著ス所ユトピアノ紀ハ則チ
略上ニ掲クルガ如シ其後暗計家起リテ交際ヲ
改設セシトヲ謀リ以テ全ク之ニ等シキ計策ヲ
陳出シ特ニ永久スルノ望ミハナカリシト雖ル
既ニ實際ニ之ヲ施セリ其黨ノ長タルハ即チロ
バルト、フウ、ン及ビフウリエルノ兩人是ナリフ
ウリエルハ佛國ノ人ニテ深ク宗旨ヲ執信セシ
ト云フ斯クテ此黨ノ目的トスル所ハ時ノ形勢

ニ從ヒ或ハ五十家或ハ百家ヲシテ一國トシ相
共ニ生活セシメントノ旨趣ニシテ先ヅ人民ヲ
シテ一般ノ為メニ勞動ヲ為サシメ以テ普通ノ
資本ヨリ平均シテ之ニ支給シ総テ一箇ノ私有
ヲ廢シ一箇ノ情意ヲ去テ心ヲ報國ニ竭サシム
ルニ在リ而シテ子女ノ教育宗旨ノ信仰其他重大
ノ事件ニ就テハ復如何ニ改革スバキヤノ事ヲ
説カズ故ニ惡情ヲ芟除スルニハ如何ニシテ為
スバキヤ或ハ怠情ノ人常ニ勉強家ノ所産ヲ徒
ラニ費ヤスカ如キ其情態如何ニ變遷スバキヤ

ノ下甚ダ曖昧タリ索ズルニフウリエルノ説ハ
總テ國ノ規律ニ背クモノハ斷然之ヲ放逐スル
ニ如カスト斯ノ如キハ固ヨリ全躰ノ正理ヲ失
フモノニシテ若シ其國ノ人民惡質ノ人ヲ改化
シ之ヲ保持スル能ハザレバ此法全ク賛スルニ
足ラズ仮令通常ノ交際ニ欠典アリト云フモ不
善不慮ノ輩ヲ漫リニ棄却スルノ下ナシ夫レ罪
惡無道ノ人ニハ牢獄アリ改化院アリ貧窶飢渴
ノ人ニハ作工場アリ斯ノ如クニシテ最モ放蕩
無頼ノ徒ト雖モ皆能ク恩惠ヲ受クルヲ得ルナ

族宗政治ノ國及ビ同姓ノ種族

族宗政治ノ風ハ古來亞剌比亞其他東洋ノ諸國
ニ行ハル、所ニシテ其交際ノ風頗ル淳樸ナリ
元來族宗トハ一家族ノ父ト云フ義ニシテ即チ
一種族ノ酋長ヲ指ス而シテ其種族タルモノハ皆
其酋長ノ命ニ從ヒ事大小トナク大抵其裁決ヲ
受テ之ヲ為ス蓋シ族宗ノ職ハ常ニ世襲ノモノ
多シト雖モ間之ヲ選舉シテ立ルモノモ之アリ
太古族宗中最モ高名ナルハアブラハムヲ以テ

巨擘トス其生國ハ亞刺比亞ニシテ後ニヘフレ
グ國ノ太祖トナリシ人ナリ方今此等ノ野蠻ノ
首長ヲ呼ンテ「シエクト」ト云フ「シエクト」トハ亞刺比
亞ノ語ニシテ長老ト云フ義ナリ
斯ク初世ノ景況ニ居ル種族ハ常ニ己ノ住處ヲ
定メズ牛羊ノ群ヲ牽テ牧草ヲ尋子或ハ野獸ヲ
田獵シテ周遊四方ニ到ル就中荒原大野ニ行ク
者ハ家族皆駱駝ニ乘リ且之ニ帷幕ヲ運輸セシ
ム蓋シ此等ノ種族常ニ水草ヲ趨テ處ヲ移スカ
故ニ世ニ之ヲ名ツケテ遊族ト云フ近世亞刺比

亞ニ居ル遊族中最モ草昧ナル者ヲ呼シ「ゲベド
ウイン」ノ名ト云フ即チ沙漠ニ居ル人民ノ義ナ
リ而シテ其人民ハ生來馬術ヲ善スト雖ル其為ス
所全ク盜賊ニ異ナラズ若シ人ノ此地ヲ過クル
者アレバ路傍ニ潜伏シテ其來ルヲ窺ヒ直ニ其
道ヲ遮リ掠奪遺ス所ナシ故ニ恙カ無ク此地ヲ
過キンニハ必其首長ニ金銀ヲ投シテ其恩愛ヲ
買ヒ以テ其保護ノ約ヲ得ザルベカラズ凡テ是
等ノ人種ハ寔ニ僅々少恩ヲ施スモ必ス金帛ノ
報ヲ得ンテ欲ス嗚呼此贈物ハ埃及細利亞

刺比亞其他東洋ノ地方ヲ過ルニ歐羅巴旅人ノ
常ニ償フベキ重税ト云フマシ
上文ノ彷徨生計ニ就キ世ニ鑿詭アリテ其實事
ヲ證明スルニ似タリト雖モ聖經中族宗政治ノ
世ノ記載ニ就テ之ヲ考フルハ更ニ其正説ヲ
得ベシ今文明ノ意慮ヲ以テ牧野ノ樸實ト其自
由トヲ察シ其想像ノ愉快ナルヨリ遂ニ之ニ迷
眩シ凡ソ何レノ時世何レノ國ヲ問ハス人ノ情
慾ノ相同キトヲ忘却シ且如何ナル生計ノ情態
ヲ問ハス常ニ困難淹悶ノ事アルヲ忘レ易シ竊

ニ思フニ斯ク水草ヲ趨フテ處ヲ遷移スル如キ
無聊無頼ノ生計ニ於テハ固ヨリ難苦不幸ノ事
頗ル多ク且人ヲ管理スルノ法律トクシテ特ニ
カヲ以テ人ヲ服スルノ風徃々行ハル、ト之ア
リ近世米國ノ旅客ステーヘン氏バドゥイン人
種ヲ雇ヒ其護衛ヲ得テ亞刺比亞彼土列亞ヲ經
歴シ彼ノ遊族中ノ交態ニ關スル世ノ飾辭ヲ辨
駁セシト左ノ如シ

余旅行ノ間聞ク所見ル所ニ從ヒ從來信セシ
説ノ皆妄誕ナルヲ知リ且東洋ノ風俗ヲ繪キ

タル圖畫ノ類モ亦全ク無實ノモノタルヲ察
セシト雖氏余尚_ホ以為ラク沙漠ノ居民中ニハ
其風俗甚ダ淳樸ニシテ初世ノ情態ヲ存スル
ノミナラズ節儉戒慎ノ心アリテ貧窶ヲ厭ハ
ス放逸ヲ賤ムノ氣質ヲ備ヒシハ亦實ニ人生
ノ美質ト云フベキモノニシテ即チ東國作詩
ノ風致ヲ助クベキ一端ナリト然レ氏是亦誤
謬ナルヲ悟レリ凡ソ沙漠ヲ彷徨スル人種
中ニ於テハ如何ニ其性ノ表スル所ヲ察シ如
何ニ今日ノ慣習ヲ見ルモ一トシテ我カ文明

ノ德澤ヲ思思セザルモノナシ余「ベドウイ」
人種ト寢食ヲ共ニセシ一二月許其風俗ヲ察
スルニ總テ何事ヲ為スニモ婦人ヲ避ケテ之
ヲ共ニセズ好テ羊腸ヲ啖ヒ衆人一器ヲ同ウ
シ之ヲ扶ムニ五指ヲ以テス夜ニ至レバ帷幕
ヲ張テ其中ニ卧スト雖氏常ニ洒掃ヲ怠リ不
潔ニ為スヨリ蠅虱ノ類自カラ多ク實ニ汚穢
ニ堪ヘズ偕テ風俗ノ事ハ姑ク之ヲ闕キ其節
儉ト云フモ自カラ好シテ之ヲ為スニアラズ
事實止ヲ得ザルニ出ルモノニテ真ノ節儉ト

云フベキモノニアラズ常ニ其天稟飽食ヲ好
ミ凡テ食物ヲ見ルハ其品ノ何様タルヲ問
ハス漫ニ之ヲ食ヒ腹皮鼓脹スルニ及テ始メ
テ其食ヲ止メ偃卧眠ニ就ク其形狀宛モ野獸
ノ如シ斯ノ如ク懶惰無為ノ所業ヲ為スヨリ
遂ニ節儉ヲ為サ、ル可カラザルニ至ルモノ
ナリ余戯レニ此人種ノ嗜欲ヲ試シニ總テ食
物ハ何物ト雖モ決シテ之ヲ嫌ヒシトナク又
其俗最モ胃腑ヲ貴ヒ鬼神ノ如ク之ヲ重ス故
ニ何等ノ事ヲ為スニモ先ツ物ヲ胃腑ニ供ス

ルニ非サレバ決シテ之ヲ為サ、ルノ風ナリ
又放逸ヲ賤ムト云フモ全ク虚謬ニシテ其砂
糖ヲ嗜ムト恰モ小童ノ冰糖ヲ好ムニ異ナラ
ス若シ或ハ炒米餅ヲ得ルハ必ス復タ其粗
麵包ハ捨テ食フコトナシ

夫レ文教開明ノ國ニ於テ金銀ヲ愛スルノ風
アルハ真ニ賤ム可キノコトナレモ曾テ此等ノ
人種中ニハ斯ル弊風ナキコトヲ世人皆洞察ス
ト雖トモ凡ソ富神ヲ念スルノ風習ハ必ス我
カ文明ノ國ニ限ルベカラス既ニ余亞刺比亞

經歷ノ間其人種中嘗テ我カ故園ト愛財ノ趣
ヲ稍同ウスル者アラバ余必ス之ヲ祝シテ云
ヒシナラン今尚其愛財ノ心特ニ薄シト雖
早晩貯財ヲ為シ以テ之ヲ交換シ終ニハモン
トシナイ山ノ麓或ハベトラアラヒヤベトノ
周圍ニ許多ノ都邑ヲ設ルニ至ラント然ルニ
豈ニ計ラシヤ蠻夷ノ國其金銀ヲ貪嗜スル
既ニ我カ文明ノ國ニ過クルトハ余前ニ貧生
ノ輻湊セル學校ニ於テ教導ヲ受ケ又我カ故
郷ニ於テモ金銀ヲ嗜好セル許多ノ人ヲ知ル

ト雖誰カバドウイン人種ト日ヲ同ウシテ
語ルベキ者アラシヤ然レモ今此等ノイヲ此
ニ露言スルハ實ニ其人種ノミナラズ余及ビ
余ガ故郷ノ人ニ於テモ皆赧顔スベキノ甚シ
キナリ蓋シマドウイン人種ハ常ニ金銀其眼
ニ觸ル、キハ其形狀譬フルニ物ナク而ノ其
旅客等ニ逼リテ金銀ヲ得ルキハ草昧ノ喜悅
顔色ニ顯ハレ其眼爛々其手振々トシテ跳テ
之ヲ握拳ス其形容殊ニ貪婪ナリ既ニ之ヲ得
ルノ後ハ路傍ニ潜伏シテ其數ヲ算計シ特ニ

他人ノ掠奪ヲ恐レテ竊カニ之ヲ隱シ敢テ他

人ノ目前ニ顯スナシ

右ノ如キ族宗政治ノ風往昔北亞米利加ノ土番
中ニモ亦行ハレシガ是又其酋長ノ指揮ヲ受ケ
總テ不文ノ世ニ存スル凡百ノ弊害ヲ受ケシト
云フ

東洋地方ニ於テハ此風遂ニ面目ヲ改メ同姓ノ
種族等邦國ヲ為スノ風起リテ既ニ幾年ノ間セ
ルテイック人種ノ中ニ行ハレタリ同姓ノ種族ト
ハ即チ一家族ノ義ニシテ血脈同根ノ民ヲ云フ

ナリ而シテ其祖先ヨリ正統ノ子孫ヲ以テ酋長ニ
立テ人々共ニ之ヲ父ト唱ヘ又保護主ト稱シテ
其命令ニ服從セリ此風次第ニ流傳シ曾テ歐羅
巴ノ西部ニ入りシカ其後テウトニックノ種族稍
盛ナルニ及テ漸ク其痕跡ヲ見ス爾來幾星霜ヲ
經テ此風尚オーストラリア蘇格蘭ノ山郷ニ存セシカ紀元一千
七百四十一年ニ至リテ法律ヲ以テ全ク之ヲ廢
止ス故ニ當今ニ於テハ獨リ古來ノ傳聞ニ在ル

奴隸ノ狀態

人已ノ身体ニ於ケルヤ各他人ニ移スベカラザ
ル自主自由ノ權利アリテ固ヨリ確乎不動ノ一
ナレバ今日ニ至テ猶未ダ宇内ニ遍カラス某ノ
國ニ於テハ男女長幼ヲ問ハス總テ人々自カラ
己ノ身体ヲ所置スル一能ハス恰モ貨品ノ如ク
賣買セラレ竟ニ人民普通ノ權利ヲ失フモノア
リ斯ル景況ノ人ヲ呼ンテ「スレーヴ」ト云フズレ
「ゴト」ハ英語奴隸ノ義ナリ往古ウヰ子タイア州貿
易盛ナル時「スレーヴ」ト云ヘル人種ヲ捕ヘテ殘
刺ニ之ヲ賣買シ以テ奴隸ト為セシヨリ近世此

人種ノ名ヲ取テ奴隸ノ義ト為セシト云フ
奴隸ハ其狀態各一ナラズト雖モ世界萬國太古
ヨリ之アリ既ニ彼ノ族宗中ニ「ネグロ」ナル者ハ
其兄弟ノ為メニ「ディアニット」ノ商人ニ賣却セラ
レ其商人亦之ヲ携ヘテ埃及ニ至リ「ポテイナル」ニ
賣却セシ一詳カニ福音第三十七篇ニ見エタリ
又埃及ニ於テ往古大饑饉ノ代ニ方リ其人民盡
ク私有物ヲ賣却シ以テ穀物ニ交換シ稍其災厄
ニ耐忍スト雖モ竟ニ其方術ヲ失ヒ止ムトヲ得
ズ「ネグロ」ノ許ニ至リ其身体ト土地トヲ奉シ以

世

テ糧食ヲ乞フテヨスフ許諾シテ之ニ糧食ヲ與ヘ
シガ此時テヨスフ衆人ヲ呼ンテ之ニ語テ曰ク見
ヨヤ衆庶我レ今日ハラヲニ代リ汝ノ身体ト汝
ノ土地トヲ買ヒ得タルゾト是亦詳カニ福音第
六十七篇第二十三章ニ見エタリ茲ニ記スル所
ヲ以テ之ヲ觀レバ往古人ノ身体ヲ賣買セシ
推シテ知ルベシ其他聖經中ノ記ニ由テ之ヲ觀
ルニゼヴス人種中ニモ猶近世ノ奴隸ニ彷彿タ
ル者行ハレシトアリ又上古ヘーチシア^{希臘}羅
馬ノ如キ異端邪教ノ國民中ニモ亦奴隸ノ行

ハレシト云フ

太古ノ世ニハ何レノ國ニテモ皆其民ヲシテ強
テ奴隸トシ終身之ヲ束縛セシト往々之アリ其
最モ自主自由ト稱スル國ト雖其人民過半ハ
奴隸トシテ毫モ普通ノ權利ヲ保ツ者ナシ^{亞地}
拿ニ於テハ一時奴隸ノ員數四十萬ニシテ自主
ノ人員ハ僅カニ二萬ニ過ザリシト云フ總テ奴
隸ヲ用井ル^トハ草昧不文ノ世ニ在リテ多クハ
人ノ私欲ヨリ發スル者ニシテ斯ノ如キ輩ハ自
カラ其所行ノ罪惡ナルヲ顧ミス猥リニ之ヲ行

ヒシモノナリ而ノ債主或ハ殘刺ニ其負債アル者ヲ捕ヘ僅カ少債ノ為メニ之ヲ通常物品ノ如ク賣却シ又賭者其利ヲ失ヒ一旦家産ヲ敗ル片ハ身ヲ以テ孤注ト為シ猶其利ヲ失ヘバ遂ニ勝者ノ奴隷ト為リテ之ニ服従ス又罪科ヲ犯ス者アレバ之ヲ捕ヘテ其自主自由ノ權ヲ奪ヒ公然賣却シテ奴隷トナセリ又凶歉ノ歲ニハ父母タルモノ其子ヲ賣テ僅カニ己ノ饑渴ニ供スルアリ又國家ノ擾乱ハ人類ノ大害ニシテ太古各國奴隷ヲ為セシ本源タリ希臘ノ學士言ヘル

アリ太古ノ世戦ヒ利アレハ獲ル所ノ兵士ハ盡ク之ヲ奴隷トナシ以テ殘酷ニ使役スル一當時ノ風習ナリシト雖ル内乱ノ時ハ之ニ異リ其虜囚ニ繫ル人ハ之ヲ奴隷ト為サスシテ盡ク之ヲ斬殺セシト又各國ノ間堂々タル戦争ノ外ニ又彷徨ヲ為ス人民等其近傍ノ國々ヲ狼藉シテ其私有ヲ掠奪シ加之其平和温順ナル居民ヲシテ己ノ奴隷トナセリ是ト同一轍ニテ士巴爾達人ハ亦「ヘロット」ト稱シ從來其國ニ住居セル人種ヲ世々奴隷ト為シテ之ヲ使役セシニ此人種屢已

ノ自由ヲ得ン_トヲ謀リ及テ其志ヲ果サ、ル_ノ
ミナラス常ニ慘刺無道ノ虐殺ヲ受シト云フ是
ヲ以テ爾來羅馬人總テ奴隸ノ情態ニ居是者ヲ
指シテ之ヲ「ベロト」ト稱セリ

歐羅巴洲中耶蘇教行レ其德化既ニ洽キニ至リ
シヨリ奴隸ノ情態稍變シテ中古ノ際ニハ奴隸
モ家臣ノ体裁トナリ何人ノ領地ヲ問ハス總テ
此地ニ生ル、者ハ終身其領主ニ使役セラレ法
律上ニモ之ヲ他領ニ移ス_トヲ許サス常ニ其地
ト共ニ賣買セラレシト云フ英吉利及ヒ蘇格蘭

ノ農夫ハ大半家臣ニシテ盡ク其地ニ附屬シ永
世領主ノ保持養育配慮ヲ承ク故ニ若シ過失ア
レハ領主則チ之ヲ罰ス其方法時アリテハ其領
主ノ名ト其家臣ノ名ヲ記シタル鐵輪ヲ以テ其
頸ニ纏ハシメシ_トアリ但シ斯ノ如キ片ハ其領
主ノ任責及テ重カリシガ故ニ世教進步スルニ
從ヒ立法官ノ所置ヲ待スシテ自カラ消失セリ
現今此方法尚魯西亞ニ行ハル、ト雖_レ交際ノ
道開進スルニ從テ竟ニ廢止セ_ニ期シテ俟ツ
ベシ

世人知ル所ノ如ク土耳其ヲ除クノ外歐羅巴各
國奴隸ヲ使役スルノ頗ル酷烈ナル者ハ皆之ヲ
廢止スト雖ヒ亞細亞弗利加ノ部落ニ於テハ
猶之ヲ設ルヲ依然トシテ舊ノ如シ亞米利加ノ
黑奴ノ如キモ元ト此地方ヨリ移セシ者ニテ洲
内之ヲ用キルヲ甚タ盛ニナリ合衆國ニ於テハ
近世ニ至ル迄黑奴雜種ヲ合シテ奴隸ノ數尚三
百五十萬アリ蓋シ黑奴ノ狀態ヲ變シ或ハ全ク
之ヲ廢止セントノ論世ニ紛々タリト雖ヒ元來
合衆國ハ氣候炎熱ノ地多キヲ以テ此等ノ種族

ニ非サレハ勞動ヲ為スヲ甚タ難ク且其皮色ノ
異ナルヲ以テ人或ハ之ヲ使ヒテ可ナリトス故
ニ其論旨大ニ錯亂シテ竟ニ決定ス可カラザル
ニ至ル

人生ノ任責及ヒ文明ノ國

文明國ノ起ル所以ハ人々自カラ努力シテ裨益
ヲ謀ルニ在リ總テ何事ヲ行フニモ唯法律ト舊
例トニ管理セラレ、ノ外敢テ己ノ意ヲ枉ケテ
人ノ意ニ從事スルヲナク盡ク不羈獨立シテ事
ヲ為スヲ要ス故ニ人々自主自由ノ權利ヲ得テ

自カラ已^レ所置スルト雖^レ尚^ホ小心翼々其法律ニ遵ヒ至當ノ政權ヲ敬セサル可カラス斯ノ如ク人々普通ノ自由ヲ得ルカ故ニ總テ人間ノ交際ハ所謂共同ノ旨趣ニアラズシテ互ニ相競ヒ相争フノ旨趣ニ基クモノナリ而シテ他ヨリ之ヲ是非スル者ナケレハ億兆ノ人民競フテ産業ヲ營ミ遂ニ上下ノ別アルニ至ル才能固心アル者ハ富貴利達シ淺量薄命ナル者ハ欠乏貧窶ニ陥ルヘシ方今斯ル形勢ノ存スルハ實ニ悲歎スベキナレ^レ諸事開進ノ理ヲ以テ之ヲ考フルル

ハ總テ人々事ヲ謀ルニ自主自由ナルハ固ヨリ好事ニシテ必ス文明國ノ因テ起ル所ナルベシ夫レ斯ノ如ク人々自由ヲ得ルハ各其功ニ從テ報ヲ得ルガ故ニ愈^ニ其精神ヲ開キ之ヲ實行ニ施シ以テ富貴利達ヲ求ムルニ至ル又人民皆教育ノ道ヲ開クノ職今ヲ知リ以テ其子女ヲ教育シ其生計ノ方術ヲ求メシメ其進歩ヲ謀ルニ至ルベシ蓋シ薄弱多病ニシテ自カラ衣食ヲ給スルヲ能ハス漸ク貧困ニ陥ル者ノ如キハ則チ天性ノ不幸ニシテ止ム^{コト}ヲ得サルモノナレバ健

康無事ノ人ヲ仰テ其扶助ヲ乞ヒ其方法或ハ一
般ノ法律ニ由テ之ヲ求メ或ハ人情ニ依テ私ニ
之ヲ乞フモ固ヨリ當然ノ事ナリ
凡ソ各國人間ノ風俗ハ畧相似タリト雖ル其体
裁一ナラス殊ニ異同アルモノハ人生特權ノ廣
狹ニ在リ此異同ヲ明ニセンニハ古今ノ沿革ヲ
稽フルニ若カス但シ現今ノ事情ヲ以テスルモ
唯其一端ヲ知ルニ足ラザルヤ故ニ姑ク之ヲ闕
キ此ニ人類進歩ノ紀事ヲ探リ以テ各種風俗ノ
由テ起ル所以ヲ左ニ掲セン

歐洲各國其起ル所ノ勢皆一ナリ初メ豪傑ノ士
兵力ヲ以テ其國ヲ掠略シ竟ニ己ノ掌中ニ歸セ
シメシモノニテ斯ル所業ヲ指揮スルモノハ則
チ魁首トナリ皆若干ノ兵士ヲ率テ就中威力盛
ナル者ハ國王トナリ其他ノ魁首ハ皆其下ニ在
テ貴族ノ体裁ヲ為セリ又兵士等ハ其服従セル
住民ト共ニ家臣タリシガ歲月ヲ經ルニ從ヒ自
主自由ヲ得テ終ニ平民ノ位置ニ至レリ又貴族
ノ徒軍役ノ為メニ世々君祿ヲ食ミ封建ノ諸侯
タリシガ威力漸ク盛ナルニ及テ政府ノ權終ニ

其掌中ニ歸セリ而ノ其平民ニ特權ヲ與フルノ
欠キ難キヲ知リ之ヲ實際ニ施セシ如キハ亦甚
夕後世ノ一ニシテ當時貴族ノ徒ハ小臣ヲ束縛
シ強テ其意ニ從ハシメ加之最モ下賤ノ者ニ至
ル迄不羈獨立シテ其生ヲ營ムト能ハザリシト
云フ乃チ中古ノ史記ニ詳カナリ
夫レ人民自由ノ本源ハ王室ニ在リト雖モ國君
ノ輔佐執權職ノ如キモノアリシヨリ遂ニ大諸
侯等王ノ特權ヲ奪フニ至レリ時アリテハ英王
ジョンノ允許ニ関スルマダナカル夕狀大免許ノ如

ク王室ニ逼リテ其免許ヲ得ルノ欠キ難キトモ
アリト雖モ常ニ貴族等妄ニ政權ヲ恣ニシ全ク
君王ノ特權ヲ奪ハントセシト翼ナリシヨリ國
王ハ已レノ特權ヲ奪ハルヲ恐レテ終ニ平民ノ
扶助ヲ受ケントテ欲シ都府ノ屋宇ヲ壯大ニシ
テ其佳民ニ大ナル獨權ヲ附與スルニ至リシト
多ク而ノ都人ハ其特權ニ依頼シ堅固ナル都下
ニ在リテ王ニ左袒シ以テ貴族等ト血戰セリ是
ヨリシテ封建世祿ノ政相衰ヘ家臣モ亦漸ク自
主ヲ得遂ニ貴賤貧富ノ別ナク皆一視同仁ナル

ノ旨趣ヲ布告スルニ至レリ故ニ現今一國ノ交
際ハ大約都府ニ基クモノナレバ都府ヲ以テ自
由ノ初棲ト為スベシ
右ノ如ク詳記スル所以ハ方今人民或ハ其祖先
ノ有セシ權利ヲ剝奪セラレシトテ唱フルモノ
アルニ因レリ然ト雖モ古來ノ沿革ヲ審フルニ
往古農民及ヒ工匠ノ徒ハ全ク特権ヲ有セシモ
ノナシ蓋シ人間ノ交際ハ其進歩止ムトナク其
特権ノ如キモ逐次ニ相弘マリ方今尚時々ノ形
勢ニ從ヒ將ニ推シ弘メントスルノ勢トアリ而

ノ衆人皆同一ノ特権ヲ有スル如キハ議論上ヨ
リ之ヲ觀レバ固ヨリ必然ノトナレバ實際ニ就
テ之ヲ考フルハ稍其障碍ナキヲ得ズ但シ此
旨趣姑ラク之ヲ下文ニ送り今將サニ都府ノ建
設大ニ世ノ開化ニ裨益アリシトテ詳カニセン
トス

都府

人々方今ノ如ク文明ノ恩澤ニ浴シ高尚ナル風
俗ヲ習フハ總テ都府ノ然ラシムル所ナリ凡ソ
文學技藝ノ如キ盛大榮耀ノ事業ハ皆都府ヨリ

始リテ漸ク四方ニ波及セシモノニシテ億兆ノ
人民愈確乎タル形状ニ至リモ蓋シ此ニ基ク
又今業ヲ為シ人間交際ノ風ヲ好クシ各人同一
轍ノ權利ヲ有スルヲ明ニシ法律ヲ閑進シ赤
心報國ノ志ヲ増進セシムル等一トシテ都會ニ
因ラザルハナシ億兆相群居シテ互ニ相競ヒ相
争フテ己ノ利益ヲ謀ルヨリ遂ニ法律ヲ設ケザ
ル可カラズ赤心ノ如キモ從來ノ利益ヲ思思シ
且之ヲ保持セントノ意ヨリ發スルモノナレバ
固ヨリ此等ハ都府ヲ以テ本トナスモノナリ

裁判以來初メテ都府ヲ設ケシハ亞細亞亞弗利
加希臘以太利ヲ以テ嚆矢トス就中ヘー子シヤ
埃及ノ部落ニ於テハ最モ盛大ノ都府ヲ設ケ夙
トニ富饒ヲ致シ爾來幾ナラズシテ至文至明ノ
域ニ至リ其名ヲ四海ニ轟カセリ當時埃及人以
為ラク其都府デイラボリス一名セバハ希臘ニ在ル
所ノ都府ヨリ更ニ舊設ニ關スト又プリニ氏
ノ説ニセクロピヤハ紀元前一千五百八十二年
ニ當テセクロプスナル者アチカニ於テ建設シ
後亞地拿ト稱スルモノニシテ希臘國中ノ最モ

舊都ナリト太古ハ聯盟ノ都府數種アリテ喻ヘ
 バヘー子シヤ聯盟府ハテールシドン等ノ都府
 ヨリ成リ又アチューヤン聯盟府ト稱シ當時マゼ
 ドンノ威カニ抗センガ為メ希臘最大ノ都府互
 ニ契約ヲ結テ同盟セシ者アリ羅馬帝ローグヌス
 テヌスノ治世以來數代ノ間羅馬人日耳曼ニ於テ
 屬府ヲ設ケシガ此ヨリ前キ既ニゴウル佛蘭西ノ古名
 是班牙亞非利加等ニ於テモ亦斯ノ如キモノ
 設置セリ又紀元七十年ノ頃瑞西ニ於テ始メテ
 數箇ノ都府ヲ建設セシガ大抵アレマヌニ人種

ノ為メニ毀壞セラレ其後四百九十六年ニ至リ
 フランク人再ヒ之ヲ建設セリ
 往古日耳曼人ハ水草ヲ趨テ處ヲ移シ以テ草昧
 野蠻ノ生計ヲ為セシガシャルレマン種フランク人
 後羅馬西帝國ノ位ニ即キシ人ナリ之ヲ憂ヒ其
 風俗ヲ開化センヲ欲シテ處々ニ定處ヲ設ケ
 以テ茲ニ此人種ヲ聚集セシム其後日耳曼帝第
 一世ヘ又リ亦殊ニ此事ヲ配慮シテ大ニ世ノ名
 譽ヲ得タリ故ニ世人之ヲ稱シテヘマリゼシテ
 一ブユイレルルゼ、シテ一ブユイレルトハ都府ヲ設ク
 人ト云フ義ニテ西洋各國古來ヨ

一
 百
 廿
 八
 書
 一
 聖
 經
 卷
 一
 聖
 經
 卷
 一

リ非凡異狀ノ人ヲ呼ンテ斯ト云フ又其都府ニ
ク異名多稱スルノ風アリテ斯ト云フ又其都府ニ
大ナル特権ヲ與ヘ以テ衆人ヲシテ自カラ此ニ
移住セシムルヲ謀リシニ後封建世祿ノ政ヲ
破壊スルニ及テ大ニ其翼ケトナリシト云フ而
ノ幾處ノ都府ニ王城ヲ設ケ以テ其民ヲ保護セ
シヨリ衆人封建ノ虐政ヲ避ケ且乱臣賊士ノ慘
刺ナル所業ヲ免レントテ欲シテ皆其都府ニ歸
住スルニ至レリ既ニシテ近國ノ君偶此ニ攻襲
セシヨリ衆人愈親ミテ厚ウシカラテ戮セ以テ其
國力ヲ開カント欲シ遂ニ技藝百工貿易速ニ府

内ニ行ハレ富饒愈増加シ從テ其責モ亦愈重大
トナリ竟ニ近隣ニ行ハル、法律ヲ以テ非トナ
シ別ニ良政ヲ設ケント欲スルニ至リ而ノ人民
ノ權利ヲ同一ニシ官府ノ法律ヲ公平ニスルノ
旨趣愈明カナルニ至レリ
太古文明ノ時即チ羅馬帝國ノ繁ヨリ爾來相存
スル所ノ最モ重大ナル者ハ以太利地方ノ諸都
府是ナリ若シ此等ノ都府ナカリシハ全世界
舉テ今日ノ如ク進歩セシトナカルベシ蓋シ此
等ノ都府屢互ニ干戈ヲ動カシ以テ其禍害ヲ生

百利ノ書
セシテ少カラズト雖、近世ノ開化ニ光耀ヲ生
セシテ亦勝ケテ數フ可カラズ抑、世ノ開化進歩
ノ道ヲ開キシハ王國ニアラス又大諸侯ノ國ニ
モアラス乃チ北以太利ノ都府ニ在リテ以太利
ノ小諸侯ハ皆此等ノ都府ヨリ勢力ヲ得テ己ノ
國ヲ進歩セリ以太利王第三世コンラッドノ治世
至一千百三十八年乃ニ於テハロムバルデーノ諸
都府及ヒ其首府タルミランハ富饒權勢最モ盛
ニシテ互ニ同盟ヲ結ヒ後數世日耳曼皇帝ト闘
戰ス此役ヲ以テ日耳曼及ヒ以太利ノ歷代中最

モ重大ノ事業トス既ニシテ日耳曼帝第一世フ
レデリッキミラン府ヲ毀壞セシカニ其都人日ナ
ラスシテ再ヒ之ヲ建設ス故ニ其功績ナシロム
バルデーノ諸都府ハ羅馬法王ト同盟ナルヲ以
テ皇帝モ殆ンド辟易シ遂ニ止ムテ得スコン
スタンスニ於テ甚タ不益ナル和睦ヲ講セリ一
千二百五十六年乃至一千二百七十二年日耳曼
帝國ノ王位空欠ノ片最大ナル二箇ノ聯盟府起
リ一ハハンストヴンスノ聯盟府一ハアルプス
山ノ麓ヨリメイン河口ニ至ルノ間ニ列スルハ

イゼルマンノ上ゼルマンノ義ニテ日耳曼及ビレ
イン州レイン州トハ日耳曼ノ傍ニレイン河ト
ル所ノ地方ヲ諸都府ノ聯盟ニシテ即チ一千二
百五十五年ニ方テメンツノ人ウアルポードナル
者ノ設ケシ所ナリ又之ニ等シキ大都府ハ亞刺
比亞サバノ聯盟府ニシテ當時封建世祿ノ王公
ニ抗シテ其暴虐ヲ殺シガ為メ一千四百八十八
年ニ方テ之ヲ建設セリ斯ノ如ク各國逐次ニ大
都會ヲ建興シテ歐洲一般ニ産業増加シ從テ富
饒盛ナリ知識開進シテ竟ニ普ク公當無偏ノ法

律行ハル、ニ至レリ

世人或ハ大都會ニ不行跡ノ存スルヲ誹謗スル
ハ固ヨリ當然ノナレド獨リ大都會ノミ然ル
ニアラス小邑ニ於テハ其不善甚ダ瑣少ニシテ
其害ヲ釀スモ亦稍小ナルニ似タレド斷ヘズ相
存スルヲ以テ之ヲ觀レバ所謂塵積成山ノ比ニ
シテ何ソ大都會ノ不行跡ト其害ヲ異ニスルア
ラン夫レ不羈獨立ノ性ヲ具スルハ人生一大緊
要ノナレド區々タル小邑ニ於テハ種々ノ障
碍多クシテ之ヲ保持スルヲ能ハス故ニ漫ニ大

百廿八
大都會ノ

都會ノ不行跡ヲ謗リテ他ノ好事ヲ忘却スルヲ
勿レ乃チ好事ノ生スルハ大都會ニ聚集セル人
ノ才能ト方計ノ然ラシムル所ニシテ凡ソ人才
ヲ教育スルハ數類ノ學術ニ成熟シテ宜シク其
能カヲ開カシムルニアリ然ト雖モ首府ノ財寶
ヲ増サンガ為メ總テ全國ノ名産貴品ヲ此ニ集
メ以テ他方ヲ空クスルハ最モ弊害ナリ
昔シ首府ト稱セシモノ今日ヨリ之ヲ考フレバ
正ニ異同アリ元來首府ノ義ハ甚タ盛大ニシテ
固ヨリ太古ノ世ニ存スルノ理ナシ當時首府ト

稱セシモノ總テ一國ノ勤力相聚ル所ヲ以テ云
フニアラズ唯君王ノ居住ヲ以テ云ヘリ獨リ羅
馬ハ其体裁ヲ異ニスト雖モ是亦純粹ノ都府ト
謂フ可キニアラズ舊多年ノ間其府舉テ一國ニ
メ後帝國ノ首府タルニ至リシカモ唯殘虐ヲ恣
ニセシノミ往古亞細亞洲中最モ大ナル帝國ノ
首府幾處アリシト雖モ現今一大帝國ノ首府ト
日ヲ同ウシテ語ルベキニ非ス昔ハ州郡皆寂寞
孤立ノ姿ナリシカモ方今ニ於テハ國中水路ヲ
開テ音信ヲ速ニシ交際ヲ便ニシ以テ全國四方

ヲ連結ス但シ現今大首府ノ如キハ善ト惡ト孰
カ大ナルヤ之ヲ檢査スルト甚タ難シト雖氏世
ノ文明開化人間交際知學藝術等ハ皆此大首府
ヨリ起ルモノナレバ實ニ貴重スベキ成績ト謂
フベシ若シ夫レ首府トシテ才智熟練強力相集
リテ全國ノ裨益ヲ為スニ非サレバ其首府全ク
不益ノモノタルベシ蓋シ巴勒ノ如キハ甚ダ繁
昌華榮ヲ極ムト雖氏他方ノ裨益ヲ打滅シテ然
ラシムル所ナレバ反テ障礙トナルト少ナカラ
ズ故ニ巴勒ハ佛蘭西ヲ併吞スト云テ可ナリ豈

不益ノ甚シキニ非ラズヤ之ニ反シテ日耳曼帝
國ニ於テハ國中輻湊ノ地甚ダ稀ナリ斯ノ如キ
景況ハ知學ニ裨益アリト雖氏文學ニハ益ナシ
又政府ノ政ヲ施スニ方リ甚タ不便ニシテ國家
ノ患害ヲ釀スル鮮カラズ龍動ニ於テハ曾テ巴
勒ノ如キトナシ然ル所以ハ人才ヲ教育スル學
校ノ如キモノヲ其首府ニ設ケザルヲ以テナリ
斯ノ如ク輻湊ノ地ヲ設ルノ方法ハ當今歐洲中
處トシテ行ハレザルハナク皆其首府ヲ設ケテ
珍貨奇物ヲ茲ニ聚メ以テ州郡ヲシテ畫像文房

等ニ乏シカラシムト雖モ今此等ノ誤ナルヲ悟
ルノ國モ亦多キカ故ニ時ヲ俟テ其風習ヲ變シ
更ニ公當無偏ノ方法ヲ設ルニ至ルベシ抑我カ
英國ニ於テモ首府ニ數種ノ建築物ヲ聚メ以テ
州郡ノ害ヲ為スト少カラズト雖モ速ニ鐵路自
他通行ノ方術ヲ設ケ四境ノ内普ク公當ノ利益
ヲ得セシメ以テ其弊害ヲ去ランノミ

内村耿之介 校

交際篇上終